

2017年11月26日

福音書からのメッセージ

そこで、王は答える。『はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』

(マタイによる福音書 25 章 40 節)

終わりの日には、すべての人が右と左に分けられると聖書は書きます。そして右の人はこう言われます。「わたしの父に祝福された人たち、お前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい」と。うれしい言葉です。しかし左の人たちはこう言われます。「呪われた者ども、わたしから離れ去り、悪魔とその手下のために用意してある永遠の火に入れ」。右か左か、その違いはまさに、天国と地獄です。

右に分けられるのか、それとも左なのか。どうすれば右に行けるのか。とても大きな問題です。その右と左の分かれ目は、6つの行為をしたかどうかだそうです。

それは「飢えているときに食べさせ」、「のどが渴いていたときに飲ませ」、「旅をしていたときに宿を貸し」、「裸のときに着せ」、「病気のときに見舞い」、「牢にいたときに訪ねた」ということです。ところが右側にいた人は「そんなことした覚えはないけど」と言い、左の人は「わたしはやったじゃないですか」と抗議するわけです。

ここでポイントになるのは、誰に対してそれらの行為をしたかということです。

「最も小さい者の一人」に対してしたのかどうか、それが問題なのです。

「靴屋のマルチン」というトルストイが書いた物語があります。イエス様はマルチンに、「明日あなたのところに行く」という約束をします。マルチンはイエス様をもてなそうと準備をします。一日中待ちますが、マルチンの家に来たのはおじいさんや赤ちゃんを抱いたお母さん、リンゴを盗ん



で怒られて
いる子ども
と怒ってい
るおばあさ
んでした。マ
ルチンはそ
の一人一人
をもてなし
ます。あたた

かい食事を与え、お茶を飲み、上着を与え、必要なお金を渡し、罪を赦し、仲直りさせてあげます。

それらのマルチンの元に来た人たちは、みなイエス様でした。でもマルチンは、この人たちに親切にしたなら何かいいことがあるかも？とか、この人はひょっとしたらイエス様？なんて思っていませんでした。ただ心から親切にただけです。わたしたちの周りにも「小さくされた人たち」がたくさんいます。わたしたちはその人たちに目を向けているのでしょうか。わたしたちはその人たちの存在を、無視してはいないでしょうか。

わたしたちは多くの物を与えられています。一方的に神さまから、受けきれないほどの恵みを与えられています。その恵みの、ほんの一部でもいい。形になるものでも、思いでも、祈りでも、ささげていきたいと思います。

そのときにわたしたちは、その「最も小さい者」と呼ばれる人たちと共に、右の列に招かれるのではないのでしょうか。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>